

# 新年を迎えて

株式会社明工社  
明工商事株式会社  
株式会社福島明工社

代表取締役社長 川村 龍 俊



チェンマイ市のホテルの中庭で引率の牧師先生は夜風に吹かれながら私に一言声をかけてくださった。まだ元号が昭和だったところ、大学のワークキャンプで春休みにタイへ十数人の学生とともにでかけた際のことである。折に触れそのときのことを何度も反芻しながら生きてきたものの、さすがに最近はい出すことがなかった。それがまた蘇ったのは、毎年春夏の長期休暇に滞在する長野と新潟の境にある高原のコテージにこの冬も家内と2人で訪れたときだった。

もともと豪雪地帯で有名なこの地では冬の終わりに5mもの雪が積もることもある。年末年始時期は降り始めなので、例年どおりならそれほどまではないはずだ。スコップを手にコテージの外へ回り、せめて屋内から空が見えるくらいまでは掻きうと屋根まで積もった雪の斜面を登り、なれないき、4時間も経ったころにやっとコテージの窓が姿を現した。その日は一

## 雪掻き後のひととき 脳裏に再来した言葉

に載せすぎると自分の腕力では放り投げることにできないほどだ。スノーシューを履いてはいたが、重心が傾くと腰まで雪の中へ潜ってしまう。零下の気温であっても分も立たずに全身汗だくまで積もっていた。もちろこの日も雪掻きである。そしてその翌日も雪掻きである。不思議なことに、この繰り返しがだんだん嫌ではなくなっていく、ついには家内の着想を生かし、窓の外に広がる空間に椅子やテーブルを造成、キャンドルを灯してオープンカフェに仕立てるまでになった。そこで初めてコーヒーを飲んだとき、牧師先生の言葉が脳裏に再来したのである。

「川村君、与えられた現状に感謝する以上の祈りはないねえ」……コ罗纳禍における正月のまさやかな挨拶。